

狭山ヶ丘分館 図書館だより

2021夏号



マスク熱中症に
注意してね！

狭山ヶ丘分館マスコットキャラクター
さあやより暑中お見舞い申し上げます♪

狭山ヶ丘分館児童イベントのお知らせ

※感染症対策のため、状況により中止する場合がございます。

「こわいおはなし会」

夏にピッタリの、ちょっぴりこわいお話はいかがですか。

- 7月24日(土) 午後3時10分から ■対象：ひとりでおはなしがきける子・マスクができる子
 - 場所：狭山ヶ丘コミュニティセンター2階 第1・第2集会室 ■定員：16名(事前申込制)
- 7月10日(土) 午前9時30分より狭山ヶ丘分館カウンター又はお電話で受付開始。

「夏休み工作会」(道具や材料は図書館が用意します。)

カラフルスライムであそぼう！当日は汚れてもいい服装でお越しください。

- 8月4日(水) 午後1時30分から ■対象：5歳以上(7歳以下は保護者同伴)
 - 場所：狭山ヶ丘コミュニティセンター2階 調理室 ■定員：8名(事前申込制)
- 7月21日(水) 午前9時30分より狭山ヶ丘分館カウンター又はお電話で受付開始。

こんなことしました。

令和3年 春（4～6月）

「こどもの読書週間 図書館クイズスタンプラリー」

開催：4月20日（火）～5月30日（日）参加者：子ども 131名

図書館の本を読んで答える問題、児童コーナーから答えを見つけたり、図書館のイメージキャラクター名に関する問題などが出題された用紙を「やさしいもんだい」と「難しい問題」の2種類用意しました。

クイズに正解するとスタンプを押してもらえ、全問正解すると狭山ヶ丘分館の図書館マスター『さやマスター』となれます。

またスタンプラリー達成のプレゼントとして、ガチャガチャ機をまわし、図書館員手づくりのおりがみ指輪やプレスレット、豆本ノート、さあやちゃんシール等がもらえます。週末を中心にたくさん子どもたちが挑戦してくれました！



「こどもの読書週間 春の読書の木」を实らせよう！

開催：4月1日（木）～5月25日（火）参加者：子ども 63名

木の葉の形に切った折り紙に、好きな本の題名や好きなところを書いてもらい、それを図書館入口のガラス窓に掲示しました。

3月に貼っていた桜の花の形の折り紙と少しずつ差し替えて季節の移り変わりを表現しました。自分が書いた葉を見つけて喜ぶお子さんや足を止めて見入っている来館者の方の姿が印象的でした。たくさんのご参加ありがとうございました。



「出張おはなし会に行ってきました」

訪問先：6月3日（木）三ヶ島公民館



三ヶ島公民館へ出張おはなし会に行ってきました。参加者は2歳以下の乳幼児と保護者です。感染症対策のため例年と違い、会場が少し広いホールだったので、離れた席のみなさんにも楽しんで頂けるように紙芝居や大型絵本を用意していききました。大型絵本を開くと、いつもよりも大きな挿し絵に保護者の方々から「おお」という驚きの声が上がりました。狭山ヶ丘分館のマスコットキャラクター、くまのさあやと一緒に手あそび歌もしましたよ。

「ブックトークに行ってきました」

訪問先：6月9日（水）宮前小学校 / 6月16日（水）若狭小学校

所沢図書館では、小学校3年生の全学級を対象に図書館職員が小学校を訪問して「ブックトーク」を行っています。ブックトークとは、1つのテーマに沿った複数の本を紹介していくというものです。今年度の狭山ヶ丘分館のブックトークテーマは「チェンジ！」です。児童の皆さんに楽しんで頂けるよう内容に気を付けながら、それぞれ要点をかいつまんで紹介します。「続きが気になる人は、この本をぜひ読んでみてください」というと、みんなちょっと残念そうな顔に。お忙しい中、見学をしてくださった校長先生から帰り際に「私もお話の続きが大変気になっています。いいところで紹介が終わっていたので」と言われ、後日紹介した本を含め1か月間40冊を各クラスに貸出することを子ども達への説明と同じ様に改めてお伝えすると「それを聞いて安心しました。子ども達も喜びます」と笑顔で言っていただきました。このブックトークを通じて本を身近に感じ、図書館で本を借りるきっかけになってくれれば、と思っております。



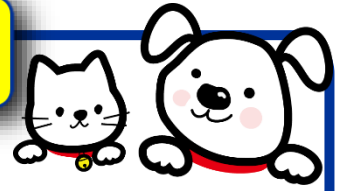
★ブックトークで紹介した本★

「いたずらおばけ」<M>『世界のむかしばなし』より 瀬田貞二/訳 太田大八/絵 のら書店
『どうぶつのあしがたずかん』<48>加藤由子/文 ヒサクニヒコ/絵 他 岩崎書店
『パンのかけらとちいなさあくま』<M>内田莉沙子/再話 堀内誠一/画 福音館書店
『牛乳パックであそぼう』<75>猶原通正/著 井出圭祐/イラスト 草土文化
『ワビシーネ農場のふしぎなガチョウ』<Fキ>
ディック・キング=スミス/作 三原泉/絵 あすなろ書房



図書館スタッフの オススメ本

架空の犬と嘘をつく猫



寺地はるな/著 中央公論新社 請求記号：913.6/テ

「家族」と聞くとまず何を思い浮かべますか？「お互いのことをよく分かっているのが家族」という方もいれば、「よく理解しているようでいても、心の奥底までは分からない」という方もいると思います。おそらく100人いれば、100通りの「家族」をそれぞれ頭の中で思い浮かぶのではないのでしょうか。こちらの小説に登場する、羽猫（はねこ）一家の5人は、皆それぞれ日常の中で小さな嘘をついています。やがて小学生だった主人公の羽猫山吹（はねこやまぶき）が大人になり、家族同士の距離感もお互い少しずつ変化していく中で、物語が展開していきます。寺地はるなさんの作品は、登場人物一人一人の心情が丁寧に描かれているのが大きな特徴です。主人公が大切な人の世界を守るためにつく嘘。それに対して祖母の言う何気ない一言が心に染みたりと読み進めていく中で、登場人物たちと同じように気持ちが揺れ動きます。バラバラだった羽猫一家がお互いの気持ちを少しずつ理解していく中で、どのような終着点を迎えるのか。読後しばらく余韻に浸れるような一冊です。

モンテレージョ小さな村の旅する本屋の物語



内田洋子/著 方丈社 請求記号：024.37/ウ

モンテレージョはトスカーナ州の山岳地帯にある小さな村です。この村は「露天商賞」の発祥地でもあります。この文学賞は、イタリアで刊行された本の中から毎年よく売れた本に対して与えられ、本屋だけで選出されます。かつて特産品がなく貧しい村人たちは、本の行商で生計を立てていました。露天商である彼らの扱う本は町の本屋とは異なり、手頃な値段の古本や手に入りにくい禁書など。何世紀にもわたり、客が読みたい本を探し出して届ける本の行商人を続けていくうちに、村人たちは次第に売れる本を見抜く力を持つ目利きとして、出版社からも頼りにされる存在へと成長していきました。今でも毎夏、村では本祭りが開かれ各地に散らばって行った村人たちは祭りに合わせて帰郷します。書店主や露天商、出版人など職業や住む場所が異なっても、先祖代々村人たちは変わることなく本を売り続けてきました。本の村モンテレージョの人々の本に対する深い愛情や、客たちとの本を介したやりとりを大切に思う心が感じられる、本と本屋の原点にふれることができる一冊です。

New! 狭山ヶ丘分館所蔵の雑誌について

今年度より狭山ヶ丘分館に所蔵されることになった雑誌をご紹介します。

◎AERA（アエラ）／朝日新聞社／ビジュアル重視のニュース週刊誌

◎dancyu（ダンチュウ）／プレジデント社／毎月ワンテーマで展開する食の月刊誌

◎NHK 将棋講座／NHK 出版／「観る将」の方も楽しめる企画が満載の月刊誌

その他にも様々なジャンルの雑誌をご用意しています。ぜひご利用下さい！

